

第5回肝臓病教室

インターフェロンの副作用と その対処法

大阪市立大学医学部附属病院薬剤部
内田 有美

ペグインターフェロン・リバビリン 併用療法について

ペグインターフェロン

(週に1回の皮下注射)



ペガシス皮下注



ペグイントロン皮下注用

リバビリン

(1日2回服用、朝夕食後)



コペガス錠200mg



レベートルカプセル200mg

併用してはいけない薬



インターフェロンと
併用できません。

小柴胡湯

各メーカーから発売されて
おり、デザインはメーカーに
よって異なります。

注意していただきたいこと

治療前 に注意すること

・治療を始める前に、治療で得られる効果と副作用について、主治医の説明を十分に聞いて理解しましょう。

・病気の状態によっては、このくすりの治療が受けられない場合や、特別な注意が必要になることがあります。治療を受ける前に主治医と相談してください。

・他の薬を服用している場合には、主治医に相談して指示を受けてください。

治療中に注意すること

- ・ペグインターフェロンは1週間に1回の注射を続けることで効果が期待できます。
- ・治療の効果や副作用のチェックには定期的な血液検査が必要です。
- ・リバビリン併用時は、治療中と治療終了後6ヶ月間は、必ずパートナーの方とともに避妊してください。
- ・内服(リバビリン)は、必ず医師の指示通りの用法用量を守って服用しましょう。

ペグインターフェロン・リバビリン 併用時の 副作用について

治療中によくみられる副作用

初期
1週間以内

インフルエンザにかかったような症状(熱が出る、頭が痛い、体がだるい)関節が痛い)

中期
2～12週間

体がかゆい、歯ぐきや鼻から血が出る、おなかが痛い、食欲がない、下痢をする、吐き気がする、貧血

後期
2～3ヶ月以降

脱毛

治療期間を通してみられる副作用
(注射したところの炎症やかゆみ)



初期(1週間以内)

インフルエンザ症状

症状:発熱、頭痛、体がだるい、関節が痛い

注射した当日から発熱がみられます。
程度に応じて解熱剤を併用します。

インフルエンザ様症状(発熱、頭痛時) に使用する薬の例(当院)



ロキソニン錠60mg



ポルトレンサポ

中期(2～12週間)

そう痒症

症状:体がかゆい

程度に応じてステロイド軟膏や抗ヒスタミン剤を併用します。

中期(2～12週間)

消化器症状

症状:食欲がない、おなかが痛い、
下痢をする、吐き気

食欲がないときには食べやすいものを中心に。

中期(2～12週間)

血小板数減少

貧血

白血球減少、好中球減少

程度に応じて減量や、治療の中止が必要になる場合もあります。

後期(2～3ヶ月以降)

脱毛

症状:いつもより抜け毛が気になる

治療終了後しばらくすると元に戻ってきます。

後期(2～3ヶ月以降)

甲状腺機能異常

糖尿病の悪化

目の症状(網膜症)

定期的に検査をおこないます。

特に注意が必要な副作用

- 高熱がでた、発熱がつづく、咳がでる、
息切れがする、
息が苦しい、からだがだるい



うたがわれる副作用

間質性肺炎

多くの方にはみられない副作用ですが、気づくのが遅いと命にかかわる場合があります。何か気になったらすぐに主治医に連絡してください。

- 眠れない、気持ちがひどく落ち込む、ぼんやりする



うたがわれる副作用

うつ傾向などの 精神神経症状

うつ傾向の初期症状は、夜眠れなくなることです。症状に応じて睡眠剤を併用します。定期受診の際にも、主治医に最近の気分などをくわしく伝えてください。また、家族の方は、患者さんの様子に変化がみられたときにはすぐに主治医に連絡してください。

- 血圧が上がった、頭が痛い、体の片側がまひする、吐き気がする、しゃべりにくい、考えがまとまらない、手足がしびれる



うたがわれる副作用

脳血管障害

男性、高齢者、高血圧の方に多くみられることがあるといわれています。高血圧の方は、血圧が良好にコントロールされていることを確認してからベグインターフェロン治療を開始します。さらに治療中も血圧を定期的に測定します。

副作用を早期発見するために

・副作用について、主治医の説明を十分に聞いて理解しましょう。特に注意が必要な副作用の症状に気付いたら、できるだけ早く主治医に連絡してください。

・ご家族の方は、患者さんの日常生活の中で何か気付いたことがあれば、できるだけ主治医に伝えるようにしてください。

・医師と連携しながら、副作用の早期発見・対処をしましょう。

